

いつかを夢に見て



Mooicco9

2016,2,27

僕の夢

僕はペガコンを飼っている、そしてペガコンに乗って空を飛ぶのが夢だ。そして父と母からペガコンに乗っていいと許可が出たので初めてペガコンに乗ってみた。

そしたら、ペガコンに乗ることさえ出来なかった、この空を羽ばたけると安易に考えていたが、甘かった、それでも僕は諦めず父と母の助言を大切にしてい週間で乗ることができた。ペガコンから落ちて怪我はするわ、歩く呼吸がうまく合わず止まってしまうわで大変だった。

そして毎日ペガコンと餌をあげながら話をした、どーしてゆうことを聞いてくれないだい？ペガコンは何も言って来なかった。ただ練習を重ねてペガコンに性格は理解したつもりだ。

そして父と母が空へ一人で行っていいと許可が出た。

僕は嬉しかった。そして夢にまでみた大空だったから楽しみだった。そして父と母に行ってきますと胸を張って言い。出発した。

ペガコンも嬉しそうな感じがした。「さぁ行くよ」とペガコンに言い出発した。ドキドキが止まらなくて、落ちたら死んでしまうので、緊張が走った。ペガコンが走って「さぁ」と言って空へと飛び立った。その時の瞬間は自分が流れ星になった気分だった。そして地上の光景はブロックのおもちゃに似ていると思った。

大空の散歩は地面とは違って柔らかい。パカパカという音がない。そして雲の中に入るとペガコンがコントロールを失って落ちそうになる。僕にとっては腕の見せ所だった。

父と母の言うとうり早めに自宅帰った。

父「どーだった？」少年「最高だった」母「お腹すいた？」少年「うん」母「ご飯にしましょ」そして父と母は言った「ペガコンもいいがちゃんと勉強しなさい」少年「勉強ってなんのためにするんだよ、勉強よりペガコン乗っていた方が楽しいじゃん」父「勉強ってのは世界を知るためなんだ、もちろん人生を楽しむために勉強が必要なんだ」母「知っていることを楽しめる為に勉強するの」少年「知っている楽しいのか。」そしてペガコンとの初飛行は終わった。

そして少年は父と母の言うことを無視して毎日ペガコンに乗って遊んだ。父と母はカンカンだった。そしてとある日、ペガコンとの羽とツノが取れてしまった。

少年は空を飛べなくなって泣きわめいた。父「だから言ったら勉強しないからバチが当たったんだ、当分は勉強するんだぞ」母「きっと勉強すればまた空へと行けるわ」少年は母の言葉を信じた。

空が飛びたい、そして地球を一周したい。そして少年は頑張った。猛勉強を開始した。そしたら三週間後小さな羽とツノがペガコンに生えた。

「やったー」少年は大喜びした。父「こりゃあと三年したら空を飛べるかもわからん」母「きっとペガコンが勉強して欲しかったのよ」少年「いろんな事を勉強してペガコンと一緒に大きくなりたい」

そして三年後、、、

少年も立派になり、ペガコンにも立派な羽とツノが生え大空を旅している。

その姿は貴公子そのもので見ると幸せになると噂になった。

